

平成31年度（令和元年度）第2回古賀市文化財保護審議会 会議録

開催日時 令和元年12月23日（水） 10時から11時30分まで

開催場所 リーパスプラザこが歴史資料館研修室

出席委員 西谷正会長 桑田和明副会長 横田義章委員 今橋省三委員

欠席委員 森弘子委員

出席者 長谷川清孝教育長 青谷昇教育部長

事務局：柴田博樹文化課長 杉村幸一歴史資料館長 川原幸恵文化振興係長
坂梨美佐紀市史編さん準備係長 井英明文化財係長 甲斐孝司業務主査
大江道子主事 西幸子主事

傍聴者 なし

1. 開会の言葉

2. 教育長あいさつ

3. 議事

西谷会長 まず、古賀市指定文化財に関する調査審議、これは継続審議ということだが、案件は「五所八幡宮の大般若波羅蜜多經」である。それでは事務局のほうからご説明いただく。

井係長 （資料1～20ページに沿って古賀市指定有形文化財の指定に諮問内容について説明。）

西谷会長 ありがとうございます。五所八幡宮の大般若波羅蜜多經に関連する資料等々について実に詳細に調査していただき、今後、大いに参考になると思われる。ご質問等あれば発言願う。

桑田副会長 （3）の所見のところについては、前回の会議でも出ていた、どこの版なのかという話になってくるかと思うが、宗像大社の河窪さんに実際に見ていただいた所見もあると思うので、このところを少し解説していただいてもよいか。

井係長 2ページの（3）所見、これは大般若波羅蜜多經調査の所見になるが、これについてかいつまんで説明させていただく。桑田先生がお話を継いで下さり、河窪奈津子氏に来ていただき、五所八幡宮が所持している大般若波羅蜜多經を見ていただいた。結果から申し上げると時代相、そして体裁などから判断して思溪版であろうということをご確認いただいている。思溪版蔵経というのは、下に書いている通り、王氏一族の浄財によって浙江省湖州思溪の円覚禅院で開版されたものだが、これは円覚禅院のものを前思溪、そのあとの資福禅寺でされているものを後思溪という風に呼ばれているようだが、その詳細はわからないが、思溪版であろうということで確認をいただいている。思溪版というのが一行17字の版式なのだが、五所八幡宮に伝わっているものも一行17字で、まず表紙の仕立ての特徴からも思溪版であろうということであった。9ページから14ページまでが慈眼庵に伝わっておる大般若波羅蜜多經の經典になる。慈眼庵に伝わっておる二冊については一行17字となっているが、嵯峨天皇とされているものは巻末になると18字、19字になっていて少し崩れているという形である。11ページが嵯峨天皇、13ページが藤原家隆とされているものになるが、11ページの嵯峨天皇とされているものは五所八幡宮に伝わっているものと同じ天と地に界線が引かれていて、中も罫線が引かれているスタイルである。家隆のものについては天地に界線がなく、中に罫線も引かれておらず、字体も少し違う。9ページの左が嵯峨天皇、右が家隆なのだが、二つともこのように表装は違うのだが五所八幡宮に伝わっているものも全く違う表装で、結局三種類あるという形になり、全く体裁の違うものであった。よって、嵯峨天皇とされてい

るものと藤原家隆とされているものは別時期施入のものであろうという風に考えている。嵯峨天皇とされているものは 10 ページになるが、大般若波羅蜜多經と書かれているタイトルの右側に極札が貼られており、これは鑑定書のようなものになると思われるが、嵯峨天皇と書いてあり、「琴山」の極印が押してあるというものになる。これは極札を入れているのが古筆家であり、古筆家は江戸時代初期以降なので、こういった体裁をとっていることから、これは江戸時代以降であろうということを考えている。藤原家隆のものについては今は貼り札等は見られないが、同じような貼り札がされているようであれば、やはり同じ時期以降の施入ではないかと考えている。

桑田副会長 そうすると、この二冊については、河窪さんは見ていない？

井係長 見られていない。

桑田副会長 前の写真を見られての見解ですね。

井係長 はい。この二冊についてはまだ見ていただいていない。

桑田副会長 ということは何版とかそういったこともまた確認をしていただく必要があるということですね。

井係長 はい。ただ嵯峨天皇のものは途中で字数が増えたり、きれいに版式を組んでいなかったりするのでしょうか、と。

桑田副会長 今おっしゃられたように応永年間と永禄年間のものとは別に佐賀のこの二冊は新しく施入をされた可能性が高いということですね。

井係長 はい。そうではなかろうかと思う。

桑田副会長 文字とかそういうものでも応永と永禄のものとの共通点はあまりない。字数などは別として。

井係長 はい。文字の大きさが違うので。嵯峨天皇のものは文字が大きく、藤原家隆は少し小さい。

桑田副会長 そうすると五所八幡宮に施入されていたものではないという可能性もあるということですね。

井係長 そうですね。これも他に詳しく資料が出てくればいいのだが、結局大正時代に見つかってその前にわかっている事跡としては、寛政のころに修理したものしか知られていないので。それ以前は佐賀のほうに移っているのでは、おそらく佐賀へ移った後に施入していると考えざるを得ないのかということである。

桑田副会長 それと所見のところで書いてある内容で言うと、嵯峨天皇あるいは家隆の分に極札が貼ってあったということになり、河窪さんに見ていただいたりしているわけではないが、そこまで下がるのかどうかというので言うと、かなり難しい。

井係長 そうですね。嵯峨天皇になると版がないので。写経したものを写すしかない時代になってくるのでどうなのかな、ということである。家隆のものには一行 17 字で入ってはいるがどうなのかな、と。九州国立博物館の館長さんが書の専門家なので見ていただくかとは思ったのだが、真筆でないものをわざわざ時間を割いて見ていただくのもどうかと。一応お話だけでもさせていただこうかとは思っているが。今度、1 月 18 日に慈眼庵で大般若が行われる際に大方の方々が集まれるということで、その時に今一度、他の物についても確認してみるということでお言葉をいただいている。ですので、他の 5 冊がどんな状況かというのを見ておいた方がいいという風に考えている。

桑田副会長 それは前行かれた時に所在不明ということだったが改めて確認をするということですね。

井係長 はい。正直な話、灰塚に納めたという記載があったかと思うが、その灰塚の場所さえもわかっていないようだったので。そういうところも含めて引き続きお調べいただくようお願いはしている。

桑田副会長 残されていたというのはおそらくこの極札にこの二人の名前が載っていたからということと特別に五所八幡宮の方に返還をしないで残してあったということもあるのですかね。

井係長 そうかもしれないですね。

桑田副会長 もし嵯峨天皇の極札だとして、そのところについて、今回、折本裏の写真を撮ってきてありますよね。

井係長 14 ページですよ。

桑田副会長 はい。このところを見たら墨消だが、これが筆者ではなかろうかという感じがしますよね。

井係長 はい。

桑田副会長 「禅樹」というのと一字空いて「料紙ノ旦那」とあり、紙を支援した人が慶孝、という風に考えれば、もし嵯峨天皇が書いているとするとこういうものはないかと思うのだが。

井係長 そうですね。

桑田副会長 極札のところが残っているということで、この極札は時々見るような極札ですかね。どこかで見たような記憶もあるのだが。これではなくて、古筆家の方が押して札にしていくような感じになるのですかね。

井係長 はい。

桑田副会長 あまりこれに引きずられなくてもいいような気がするのだが。料紙とか書き方であるとか、途中で17字が18、19字になったりなど。能書家の方であればそういうことがあるのかなと。

西谷会長 これは今後どのように扱っていかれますか。引き続き調査を？

井係長 そうですね、これは引き続き調査をさせていただいた方がいいかと思っている。他の5冊も出る可能性があるので、その辺も含めて全部見させていただいて。五所八幡宮にあるものと、慈眼庵に伝わっておるものの中で、「南岩」と書いた方がいらっしゃるのだが、それが五所八幡宮にも慈眼庵にもあるので同じ方かどうかというのも確認したい。その辺が合えば、例えば今まで600巻を600人で書いたという風に言われているが、そこはそうではないということがいえると思うので、そのところの確認ができればという風に思っている。

桑田副会長 今のをもう一度、「南岩」ですか。

井係長 南岩ですね。みなみいわと書いて。

桑田副会長 それが佐賀の方にもあるという。

井係長 はい、あるはずなのです。今回は見つけることができなかったが。

桑田副会長 筆者になる。

井係長 はい、五所八幡宮の方にも南岩という風に書いてあるものがあつたので。

桑田副会長 今回の調査では実際に見られて、さっきも言ったように永禄と応永の年間と別のものがあるということですね。少なくとも三種類。

井係長 はい、そうなるかと思う。

桑田副会長 二つの部分はそれぞれ別で、罫線が引いてあつたりなかつたりということになってくる。

井係長 そうですね。全く体裁は違う。

桑田副会長 そうということがわかったということですね。

西谷会長 今後の調査の進捗状況にもよるが、予定としては何年度くらいに諮問されるのか。

井係長 一応、現物確認ができないのであれば今あるものでやるしかないのかという風には思っている。あとは、五所八幡宮に残されている資料というものも大般若波羅蜜多經に関わるものがあるとは思っているのだが、ないようなので五所八幡宮がお持ちになっている資料については棟札等あるがそれはそれで別に調査させていただいて別建てのものにさせていただこうかという風には思っている。

西谷会長 これは現在嬉野にあるわけだが、佐賀県が指定するということはないのか。佐賀県がどの程度把握しているのか。県内にしろ市内にしろ、その自治体が指定しますよね。将来こちらに寄託されるとかここにもものがあるならうちになるが。

井係長 そうですね。その辺も含めて、嬉野市がどこまで把握しているのかまず聞いてみようかと思

う。大般若というお祭り自体もやられているのであれば一つの民俗文化財ではありましょから、そういったものを把握されているのかということも含めて。

西谷会長 その辺について嬉野市にも仁義切っておいた方がいいかと。ご相談されて。現在の所有者の方はこちらに寄託とかそういったお気持ちは。

井係長 ないですね。

西谷会長 そうすると、例えば嬉野市にあるのであれば、嬉野市の方で指定ということもありうるわけですね。そういう把握をされていなくてこういう状況ですね。声をかけて書類調査するなどといったこともされてみてはどうか。

井係長 そうですね。わかりました。

桑田副会長 大般若経のところに書いてあったのだが、行事の時に特別に大般若経を読むということはないわけですね。おそらくそのお寺と周りのお寺の方が来て一般的な法要というか供養を行うということですね。

井係長 そうですね。そのような形のような形ですね。

桑田副会長 普段はここに書いているように飯田さんが保管をしてあるということですね。

井係長 はい。

西谷会長 それではこの件については調査を引き続き、嬉野市の方にも声をかけていただいて。

井係長 はい。承知しました。嬉野市と佐賀県の方にはお尋ねしておく。こちらで調査した内容を先方にお伝えして、このようなことを調べておりますが、というところまでお話をしたいと思う。

西谷会長 それでは、この件は今日のところはよろしいか。

井係長 ありがとうございます。

西谷会長 報告事項に入るが、2件あり、まず、令和元年古賀市内文化財調査について、船原古墳と開発に伴う受託調査について、福岡県指定文化財についてということで。一括して説明していただき、質疑は後程ということで説明願う。

4. 報告事項

甲斐 資料 21～23 ページに沿って 4. (1) ①船原古墳調査について説明

井係長 資料 25～26 ページに沿って 4. (1) ②開発に伴う受託調査について、③周知の埋蔵文化財包蔵地の追加について説明

大江 資料 27～28 ページに沿って 4. (2) 福岡県指定文化財「阿弥陀如来像板碑 附 薬師如来板碑」の保存修理について説明

西谷会長 ただいま報告事項を一括して説明していただいたが、質疑は個々にということで、まず船原古墳関係について、調査と活用。随分と活用をされているようだが、調査に関してまず如何か。

横田委員 実測済み点数が 87 点というのは、もう公開していいものになるのか。

甲斐 将来的には新聞等で発表したいものも含んでおり、全てがすぐに公開というわけではないが基本的には見ていただいても構わない資料になる。

西谷会長 (イ)に出土品実測と書いてあり、(ロ)に出土遺物整理委託とあるが、(イ)の出土品実測はどなたがされているのか。

甲斐 (イ)の出土品実測は市で実施しており、基本的には船原古墳の 1 号土坑を中心に行っている。(ロ)の整理委託については船原古墳の史跡地内に入っている、まだ未報告の中近世の遺構から出土した土器を中心に行っている。

西谷会長 整理委託はどちらに。

甲斐 二日市に事務所がある株式会社タクトというところで、これまでも何度か委託の実績がある会社になる。

西谷会長 その場合は、業者がこちらに来て出土品を持っていく形になるのか。

甲斐 基本的にはこちらから向こうに持って行っている。基本的に土器が中心で鉄器類等はない。

西谷会長 業者委託の場合は、できているのかきちんとチェックをしていただいて。

甲斐 はい。今日もこの後行く予定で、10点20点ごとにチェック、中身の確認を行っている。

西谷会長 では、活用関係についてはいかがか。先ほど、ロビーの歴史資料館の活動のパネルを見させていただいたが、館長さん自らが随分とやっておられるようで、頼もしい限り。

横田委員 (オ)の有機質調査に繊維、皮革などがあるが、整理する中で、これはどの部分から選んでいるのか。

甲斐 基本的には、吉松先生、片山先生に一通り全ての遺物を見ていただいている。今の段階でクリーニングが終わって出せる状態のものは全て見ていただいて、先生が確認した内容についてご指導いただいている。先生からの指導を元にこれから九州歴史資料館で調査を進めていくところである。模式図を作って遺物のどこにどのような有機質が付着しているのか確認を行い、さらに、有機質がどのような構造になっているのか電子顕微鏡等で確認して、まずは基本的なところからおさえていくところから始めていく。その内容について、今後、また吉松先生方に見ていただきご指導を受けるといって進めていきたいと考えている。

西谷会長 はい。よろしいですか。21 ページの一番下に報告書のことが出ているが、これは有機質ではなく全体の報告書のことか。

甲斐 はい。

西谷会長 令和8年度に総括の報告書が出るということは、整理も処理も終わって出土品が帰ってくるわけですね。

甲斐 はい。令和8年度には保存処理まで終わるところで九州歴史資料館とは調整している。

西谷会長 それで、終わるとこちらへ帰ってくるのですよね。そうすると、それを収納、公開、展示する博物館を。私、3年前の船原古墳のシンポジウム（※平成28年1月31日開催）でもやはり独立した建物が必要だと、国宝館とでもいうべき、それを今から毎年1億円くらい積み立てて、最終的には何十億かで建てる、ということをご提案したのだが。真剣に考えないと文化財は国立博物館等に持っていかれる。やはり地元で保存するためには地元でそれ相応の施設が必要になる。現在の収蔵庫は一杯でしょうから。そういうことも今からそろそろ考えて。これは日常的に言うとおかないと急に言うてもできないことでしょうから、念頭において日ごろから準備していただければ。

それから、それこそ今申しましたが一括国宝などということも文化庁にも打ち合わせをしたり。宗像市田熊石畑遺跡は、調査が終わって国指定になって、すぐに重要文化財になった。船原古墳はまだ国指定になっていない？

井係長 国史跡にはなっている。

西谷会長 遺物が膨大なので、整理後、報告書が出た段階で即指定するくらいの段取りで、文化庁ともそろそろその話をされてもよいのではないかと。今からしておいて、丁度スムーズに行くのではないかと。

活用関係はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、受託関係の調査について。26 ページの青柳松本遺跡だが、概要の一番最後のところに木棺墓の構造について木槨のような構造の可能性があると書いてあるが、これは極めて重要なことですね。と申しますのは、魏志倭人伝には木槨墓はないと書いてある。ところがご存知のように楯築とか平ノ山とか四国の萩原墳墓群などで出ていて。これは時代的には中期の中頃後半になるのか。仮にこれが木槨だとすれば、これは非常に重要な、日本において木槨がいつ頃に出てくるのかにかかわる問題なので、私にとってもこれは非常に重要で、報告書が出たら早速これを使わせていただくと。報告書は近い将来に？

井係長 はい。

西谷会長 期待している。先ほど平ノ山と言ったが、西谷3号墓でしたね。

井係長 はい。

西谷会長 では、報告事項の最後の県指定の阿弥陀如来像板碑附薬師如来板碑について。

桑田副会長 覆屋の補強工事ところで令和元年12月で完了予定という風を書いてあるが、27ページに書いてあるのは日光の当たり方のモニタリング調査を行った上で、袖の壁や軒等を設置するとある。これは結局どのような具合でされるのか。工事が終わってしまうと後でということにはならないと思うので、この辺はどうなっているのか。

井係長 はい。それについては、一応、どれくらいの角度で庇をつけると日射を防げるのかを出して、工務店にこれくらいの角度で庇を設けてもらえないか相談している。ただ、持っている土地の面積が思ったよりも狭く、冬至の日の夕日は防げないかもしれないというところではある。扉等の話もあったが、扉をしてしまうと、開閉について管理をしているものがしっかりとはいないため、扉はつけないでほしいという話もあったことから扉はつけられなかった。そのため、庇で対応することとしている。あとは、周辺に戸建てが新しく建ち始めたので日射の角度もモニタリングしたときと角度が少し変わってはいる。ただ、おそらくモニタリングしたときより、今回新たに設けた袖でかなり日射の角度等は制限できていると思う。

桑田副会長 ということは、今言われた庇はこれからということなのですね。

井係長 そうですね。

桑田副会長 基本的な工事は終わっているので、庇をつけることは可能だということ。

井係長 はい。

桑田副会長 それから、一般的に教えてほしいのだが、クリーニングが亀裂の補填をどのようにしているのかということと、劣化防止処理というのはどのようにしているのかというのを教えてほしいのだが。

井係長 阿弥陀如来はあまり傷んではないので劣化防止と言っても、石質強化まではせず、その前処理として水分移動が大きくなるような処理をするだけになる。薬師如来は銘文も読めないくらいに劣化しているため、今年度でできるところまで基本的な下処理を行い、来年度、石質強化までしたいと思っている。これは、完全に基質を強化できるところまで行う。

桑田副会長 クリーニングというのが素人で全然わからないのだが。

井係長 クリーニングというのは、像容の表面に阿弥陀如来は生物、苔のようなものがついているのでそれらを取り払ってあげる、これは物理的処理もするし、生物を殺す熱線の照射等の処理もする。そのようにして着床生物を取り払って表面をきれいにするのがクリーニング。その後、きれいにしたところで表面を強化する薬剤のコーティングを行う。

桑田副会長 亀裂の部分は何か塗り込むのか。

井係長 はい、充填剤を。

桑田副会長 古賀市の場合は石像関係の色々な遺物があるかと思うが、たまたまここは問題なく保存処理等をできているが、他のところも同じような状態のところが出てこないとも限らないので、定期的な確認等は必要かと思うのだが。

井係長 そうですね。今後、指定を考えているもので青面金剛が小竹にあり、かなり傷んでいたりするので。今のうちの取り組みとしては指定していないものについては補助を受けにくい状況があるので、まずは指定をしてから、今回、朝日文化財団にあげられたように、そういったものは助成金をつけさせてやっていこうかという風には考えている。

西谷会長 それでは、本日の審議、報告事項について全体を通して何かあれば。今の修理作業の実際の工事には横田委員にもご足労、ご指導をいただいて対応していただければ。

井係長 はい。それから、森先生から前回の会議で九州大学の知足先生という方をご紹介いただき、知足先生にご相談させていただいたところ、一応、好印象を持っていただいて、来年度の科研費にあげてみるというお話をいただいている。採用される、されないは別として、そういった取り組みもさせていただいているのでご報告いたします。

西谷会長 それは大変結構なことで。英彦山の調査をされている方ですね。

井係長 そうです。

西谷会長 ぜひ、活用していただいて。

井係長 はい。先ほど申したように薬師如来の書いてある文字が全く見えないのですよね。知足先生がそのあたりについて画像分析で復元ができるかもしれないというところで。

西谷会長 それから、先週の土曜日から始まったが九州歴史資料館の船原古墳の企画展について、第1展示室の半分くらい割いてされている。市民の方にもできるだけ見に行ってくださいよう広報等を通じてPRをしていただければ。壮観ですよ、すごい。クリーニングが済んだものになるが、改めて船原古墳の価値を認識した。その他は如何か。それでは、本日の審議を終えさせていただきます、後は事務局にお返しする。

5. その他

6. 閉会の言葉